

第2回ドイツサッカー海外研修旅行



平成31年2月4日(月)～2月11日(月)

世界をリードするドイツのサッカー・文化・歴史を体験した7日間

サッカーを通じて、国際的な視野を広げ、将来グローバルに活躍する人材を目指すことを目的に、平成31年2月4日から11日までの7泊8日間の日程で、第2回ドイツサッカー海外研修旅行が実施されました。男子サッカー部に所属する19名が参加し、同年代のユースチームとの国際親善試合3試合、ドイツ1部リーグ(ブンデスリーガ)2試合観戦、現地コーチによるトレーニング、長谷部選手の所属するアイントラハトフランクフルトスタジアムツアー、ドイツサッカー協会見学、ドイツの文化遺産であるケルン大聖堂、ケルン大学、フランクフルト市街観光、ゲーテ美術館観覧など充実したプログラムにより、研鑽を積みました。

同年代のユースチームとの国際親善試合3試合

ヨーロッパを代表する名門クラブであるバイヤーレバークーゼン、ドイツを代表するアイスバハタール、コブレンツとの3試合を実施しました。体格、技術力、判断力に勝る相手が、仲間と協力して、基本的に忠実にシンプルにプレーする姿勢から多くを学びました。



国際親善試合 対バイヤーレバークーゼン

ドイツFAライセンス保持コーチとのフィールドトレーニング、GKトレーニング

ドイツFAライセンス保持者のコーチに指導を受け、試合の課題から導き出された、技術力、判断力を同時に伸ばすトレーニングに、頭も体もフル回転で取り組みました。最も声がかかった”Sauber spielen!”(スマートに正確にプレーする)ことの大切さを学びました。またゴールキーパー(GK)は、現地GKコーチから特別にトレーニングを受け、世界的に優秀なGKを数多く輩出するドイツゴールキーパーの基本を学びました。



アイスバハタールU19との5対5のゲーム



技術力、判断力を同時に磨く
トレーニングに挑戦



GK大国ドイツの真髄を学ぶ

ドイツ1部リーグ（ブンデスリーガ）観戦

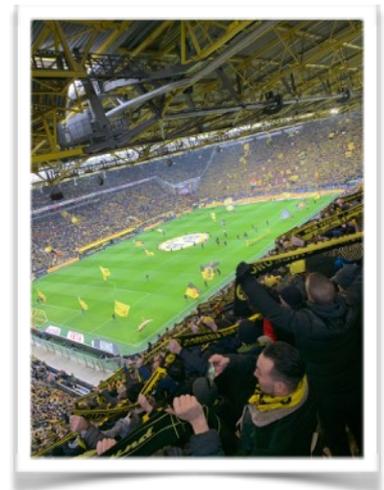
マインツ対レバークーゼン（マインツ・オペルアリーナ, 3万人収容）、ドルトムント対 Hoffenheim（ドルトムント・シグナル・イドゥナ・パーク, 8万3,000人収容）のドイツ1部リーグ上位対決2試合をスタジアムで観戦しました。スタジアムの雰囲気圧倒されながらも、ピッチ上で繰り広げられるレベルの高い攻防を目の当たりにし、自らのサッカーを見直す絶好の機会となりました。また、試合後のごみの清掃の仕方など日本との違いについて参加者間で意見を交換しました。



マインツスタジアム（オペルアリーナ）での試合観戦



熱狂的で、クラブをこよなく愛するドルトムントのサポーターと共に



8万人の観客が創り出す雰囲気

ドイツサッカー協会訪問、アイントラハト・フランクフルトスタジアムツアー

ドイツ金融の中心地であるフランクフルトにあるドイツサッカー協会を訪問し、ドイツサッカーの歴史についての講義を受け、またドイツ杯やワールドカップのレプリカなどに囲まれた展示を見学しました。「日本サッカーの父」と呼ばれるドイツ人コーチ デッドマークラマーさんのお話や、近年ドイツで活躍する日本人選手、逆に日本で活躍したドイツ人選手、2011年ドイツ女子ワールドカップでのなでしこジャパンの優勝など、ドイツと日本のサッカーのつながりについても再認識しました。また隣接するアイントラハト・フランクフルト（元日本代表キャプテン長谷部選手が所属）のスタジアムに伺い、ロッカールーム、ベンチ、ビジネスシート、記者会見場、記者席・観覧席などを見学しました。競技、サッカービジネス、サッカージャーナリズムといった複数の観点から、サッカーの社会的地位が高いドイツの最先端の状況を学びました。



ドイツサッカーの歴史について講義（ドイツサッカー協会）



フランクフルトスタジアム記者会見場にて（長谷部選手を体感）



様々な仕掛けによるスタジアムでのサッカービジネスの仕組みを学ぶ

世界遺産ケルン大聖堂、フランクフルト市街散策、ケルン大学

サッカープログラムの間を縫って、ケルン、フランクフルトの文化財を見学しました。実際目で見ると実物の迫力はまさに「百聞は一見に如かず」。皆、言葉を失いました。また世界最古の大学の一つであり、市民の手で築かれたケルン大学の施設見学をしました。日本同様、自ら学び続けることが尊いとされているドイツの価値観に触れ、これからの生活で学ぶ決意を新たにしました。



ユネスコ世界遺産ケルン大聖堂の前でそのスケールの大きさに圧倒された



フランクフルト市庁舎前（昨年ドイツカップで優勝したアイントラハト・フランクフルトの凱旋セレモニーでは、市庁舎前の広場は市民で埋め尽くされ、長谷部選手ほか選手はバルコニーからカップを掲げた）



世界最古の大学の一つであるケルン大学（1388年創立）建学者「偉大なる者」マグヌスの像前で学ぶ決意を新たにしました

トピックス

旅の楽しみの一つである食事。雰囲気のあるレストランでドイツの伝統料理に舌鼓を打ちました。またドイツで活躍するサッカー選手が、アスリートとして、慣れ親しんだ和食とは違う海外の食生活に慣れていくことの大変さの一端を知ることができました。



ドイツ伝統料理シュバイネハクツェ（豚のスネ肉）



ビュッフェ形式でアスリートとしての食事の重要性を学んだ

この研修の実現をサポートいただいた関係者の皆様、保護者の皆様に感謝を申し上げます。このかけがえのない経験を糧に、感謝の気持ちを忘れず、更なる文武両道に邁進してまいります。

